

川上 誠

学校名：公文国際学園 担当教科：英語

1. 今回のウガンダ研修における目的やねらい

教員として自分の生徒に開発や開発教育について自信をもって話ができなかったのが、実際に行ってみれば、少しは自信を持って話ができるようになるかと思ったから。

2. 目的やねらいの達成度

TICAD IV や洞爺湖サミットがあり、たくさんのアフリカ関係のイベントに参加した。ウガンダから帰国してからも、ユネスコ協会、JICA 地球広場に行ってきた。開発教育全国研究集会や世銀情報センターにも行くことにした。もっと知りたいと思うようになったこと。どう生徒たちに伝えるか考えようとしていることが自分の中の進歩だと思う。

3. ウガンダから学んだこと

思っていた以上に開発援助が入っていたこと。写真で見ていたような、おなかだけ大きな栄養失調の子どもは1人もいなかったし、水がめを頭にのせて運んでいる女性はほとんどいなくて、子どもや男性が自転車を使って運んでいた。そもそも、井戸がたくさんあった。法律的には、女性差別になっていると聞いたが、男女差別を感じる場面は特になかった。都市と田舎の関係が日本でも、欧米でも同じだと思った。

田舎の方がゆったりしていて、安全面で不安を感じなかった。都会はウガンダでも怖い感じがする。全般的に、時間がゆっくり動いている感じがするせいか、人々に余裕を感じる。自殺者や犯罪のことを考えると、日本で生きていくことのほうが難しいのではないかと思った。特に、生徒の表情を見ると、どっちのほうが幸せかわからない。

